

刊夕 日十三月八

常警每日新聞

定価 一圓五角
 零售 五錢
 郵費 別計
 電話 六三〇
 印刷所 常警毎日印刷株式會社

剃髮

泉 潤 三

月の夜は、明るすぎる鱗雲でありました。その鱗雲が、地上に降り敷いたかと疑ふやうに、星川の河床を斑に埋てゐる深雪でした。

信濃の國高井郡穂波村の星川岸に在る家を夜更けて忍び出た、人影一つ。

その人影が、星川の雪に埋もれた架橋のほとりて、夢の様に消えてから、ひとときの後でありました。

川をへだてた、平穩村のとある山寺の庫裡の扉を、ほとりとたたく音がきかれたのは。

ノート

潜水深度の記録は海女などの裸もぐりでは四十五米内外が最高マスク式では百二十米位。

「良純、誰か参つてゐるではないか」

と和尚方が杖をよび起す物さびた聲に

「はい、只今たすねて参ります……」

と方丈の稚い聲と、疊をすべるつつましい立居の氣配です。

訪れた主は、平穩村から

穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

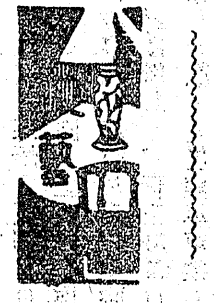
「夜更けて、なんの爲にお

訪れた主は、平穩村から穂波村へ嫁いで間のない眉目麗しい女でありました。

「名はお小夜——」

雪白の無垢を重ね着た身姿でわな／＼と和尚の前に跪くのでした。

「夜更けて、なんの爲にお



静寂が漂ひ流れて行つたのでした。

その静寂の中で、和尚は一寸襟を掻き合せただけで

「良純、本堂へ御案内なさい」

とお小夜を眼で指しながら言ふのでした。

俳句

秋に入る

飯田 雪残

七夕や風鈴ゆるゝ風のあ

七夕や君が微笑み謎のご

と

富む家の父が手もとの花火かな

涼しさや榎の下の怪異談

木の上に本を讀む子や秋日和

うつくしき小町娘や秋に入る

秋祭人魂の噂におひげ

外科 内臓 外科

レントゲン線

病室完備

醫學博士 諸 橋 鐵 彌

新川町二一七 (電四六四)

吸入用 酸素 純度 99%

モノサシ

マ ス

ハカリ

器量計

體溫計

寒暖計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

増車御披露

陸の王者として定評ある流線型ダツチブラザース二輛増車致しました。タクシーの御使用の際は新車揃の尼子タクシーに御用命を御待致して居ります。大型貸切専門車も御座います。

尼子タクシー

電話六四〇

吉田眼科病院

平紺屋町 電話六八番

醫學士 吉田久

外科 X光線科

性病科

科 科

入院隨意

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

市原醫院

平町田町 (電一一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎

外科 梅毒・淋病 市原三三男

入院隨時

耳鼻咽喉科 専門

大和田醫院

平町南町一六 (電話一七〇番)

一、齒科一般 保存科補綴科 繼續架

一、工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科

一、口腔外科 一、レントゲン科

中野齒科醫院

平町田町(松月堂向ヒ)

電話五〇九番

院長 日本齒科 中野 惠次

醫學士 日本齒科 西 川 誠

藤沼醫院

内科 小兒科 花柳病科

平町紺屋町 電話五〇七番

試乗記

涼風を衝いて 軽快なガソリン車

けふの試運転成功

▽…実施は本年末?

本縣第一の乗降客を吞吐する平驛を中心に北は久之濱、南は湯本、西は小川へとモダンなガソリンカーが快走する、鐵道省の方針としては來年三月から定期運轉の目論見であるが平驛長は是非師走の繁忙期を當て込んで本年十二月から開始したいとあつて、今明兩日久之濱—湯本間を試運轉する事となつた

記者はけふ午前八時半驛を發車する第一回の試運轉に塔乗の好運を擔ふ、車輪の音も軽く、ホームに滑り込んだガソリン車は、初お目見榮とあつて磨きをかけて垢ぬけした姿態を惜し氣もなく我等の前に横へた

車内には青沼町長や井上議長、顔も見えて、町議や男女青年團幹部、それに鐵道關係等、可成りに混み合つて居るが定員は座席六十

二人、立席四十七人、合計百九人である

定刻、耳馴れぬ氣笛の音が鳴り響き、先づ久之濱に向けて發進、窓を開放して置いても石炭カラ等の飛び込まぬのが嬉しく、夏井川の鐵橋上で河面を滑る涼風を車内に滿喫、トンネルの中も煤煙攻めの恐れはない、神谷地内の國道を走る乗合やトラックが此の意外な怪物の出現に競争心理を刺戟されてか、頻りに速力を増す模様だが最高九二軒のスピードを有するガソリンの神速力には到底及ばず、後方へ後方へと置いてきぼりを食ふ仕末、車内の子供達大いに氣を好くしてキャッ／＼と喜ぶ

斯くして六分後に草野驛着、一分休んで再び快走、四倉驛頭にはガソリン車の威容に接せんものと、群り集つた人々の視線を浴び、鰐ヶ淵邊りの風景を一ツ飛びし

て八時廿分久之濱に無事到着、時間は一秒も誤りがな

車内の照明装置やクツシヨンの柔かさ、汽車とは全く違つた感じ、一寸地下鐵の趣きがある、篠山第一校長の感想を叩けば「文明は有難いデス、これに乗つて汽車を見ると薄汚い感じがしますネ」といふ

四倉、草野を経て再び平驛へ、時計は九時十分を示して居る、更らに今度は湯本へ猛進、煤煙に遮切られぬ松ヶ岡公園の風致に、雨後の浴塵を洗つた濃緑の眺めが目新しく、青沼町長は涼しい顔で「展望車が欲しいですネ」

緩驛では阿部政右衛門氏や磐炭の人達が新來の客となる、汽車では息苦しい傾城山のトンネルも、極めて明朗な氣分の内に通過して九時廿四分湯本驛着、戻りは五十五分發車、ガソリンの匂ひが少しも嗅覺を襲はない、是れなら汽車や自動

車に酔ふ人達にも大丈夫だ、但し發車や停車の際の「ガチャリ」と云ふ大ゆれがないのだから、ウツ／＼して

居ると乗り過す惶れがある

千葉第二小學校長曰く、

「此の乗物の出現は平町の戸敷を減らしますよ住宅を近在に構へて、通勤は是れを利用すればよい」と、午前十時六分平驛に到着、是れで第一回の試乗は終つた、最初の試運轉に機械科學の恩恵を感激した一同は急に文化人らしい足どり、夫々降車、ガソリン車は試運轉の

圖書教育に

研究會を結成し

郡下に劃期的の諸計劃

郡内小學校兒童の圖書教育の向上を目的として結成された石城郡圖書教育研究會は既報の如く昨廿九日より磐中近藤教諭を講師として平第一校講堂で講習會を開催したが更に郡内小學生圖書競技會及び郡内教育繪畫展覽會を左記の如く開催すると

△小學生圖書競技會、十月中の休日第一區植田校、第二區湯本校、第三區平第一校、第四區四倉校、第五區澤渡校の各會場に各小學校尋常五年の男女生各三名を選抜兒童を集め繪物を題材として鉛筆淡彩により圖書競技を行ひ即日審査し優秀作品十名に賞状並に賞品を授與する
△石城郡教員繪畫展覽會

疲れも見せず悠然と納つて第二回の試乗招待客を待つ……(一記者)

研究會の役員

別稿 石城郡圖書研究會の役員顧問左の如し
△會長 篠山廉 △幹事長 大和田祐之 △顧問 近藤廣記、柴田善登、酒井英吉、齊藤久吉、千葉右近、赤津千里、西山直三郎、鈴木佐忠、菊地正一、鈴木佐四郎

通信研究懇談

川前村では昨廿九日午前七時から局内で縣議院に準へる爲め通信事務研究懇談會を開いた

平町人事

△新町 當時東京市王子區上十條小幡貞氏和代
△田町 當時小名濱町字定西澄川康哉氏長女雅子

検査を行ふと

△搔槌小路 當時千葉縣印葉郡成田町字成田須田初次郎氏三男知良
△鎌田町四九 高岡鶴吉氏二女禮子
△結婚 姻
△舊城跡、國井徳松氏(二一) 四倉町新町鈴木マツ(二一九)
△回死 亡
△中町一三 渡邊千代三(ハツ)さん
△杉平二〇 今井安子(三ッ)さん

外科科一般

金成醫院

金成 忠義
平鎌田町(電三五八)

今晚は!!!

8月30日 金曜日
キリン
黒ビールデー

平會館

電話六二四番

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古を奨め致します

喜多流 白土會

平町田町六九
電話一二七番

不在投票は

江名町が筆頭

鐵道乗務で平町にも百枚

本郡の縣議選舉の不在投票者は濱通りの海上生活者が多いため江名町の四百五十枚、四倉の三百枚、小名濱の二百枚で平町は百枚であるこれは鐵道乗務者の關係である

山田書記の

肅正門札

二等に當選

平町役場書記山田徹郎氏などは今回縣地方課で懸賞募集した選舉肅正の門札案に應じ千六百六十一人の應募者中から見事二等主席に當選したので左記同氏の門札文は近く縣下廿六萬の有権者各戸に貼付される筈

肅正組合

四倉で組織

四倉町では選舉肅正の爲め今回全町を二十區に分け各區毎に肅正組合を組織し組員より署名捺印の請書を取纏めると

投票所増設

郡内四ヶ所

郡内の投票不便な町村として投票區を増設されるのは

先づ引揚げ廿八日四倉町漁業組合に入電かあつた尚出漁船は四倉は四隻、小名濱六隻である

傳染病が

益々増加

平町の傳染病患者は變調の最近の天候に續々蔓延の兆あるが今年の發生数は昨年の十二名、一昨年の十五名、六七年の各七名を早くも凌駕して廿四名ありそのうち半数の十二名が死亡してゐる

上岡村の

自作爭議

平支部調停

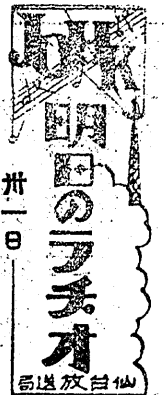
平職業紹介所へ本日滿洲國から警備通信に當る警務司無電要員五十名の募集方の申込あつたが應募條件は豫備役下士官以下の者で二年以上無線電信の通信に經驗を有する除隊後二年以内の在郷軍人、希望者は今日日中同紹介所に照會せられ度いと

遠洋漁業の

壯圖不振

一先づ引揚

既報本縣底漁業家の夏季禁漁期間利用の北海道沖への出漁船は小名濱縣水産試験場中山場長の斜旋で活躍を續けてゐたが潮流關係並に海區不案内等の爲豫期の成績もあがらず一隻平均四千圓程度のため來月上旬一



今夜は南東の風 曇り明日は南西の風 天気予報

今晩の部

後六、〇〇 子供の時間
お話 鹽廣島專賣局技師 安達
後六、二五 夏期特別講座
「全國神社巡り」麗兒島神宮伊藤藤重三郎 鶴戸神宮伊東峻次郎
後七、三〇 講演「大風と豪雨」神戸海洋氣象臺技師 師理學博士 堀口由己

ドテラ 逃走

餘罪が發覺

相馬郡鹿島村生れ伏見實(〇)は去る廿五日勿來町源助町旅館兼料理店東屋館に投宿同家のドテラ時價十圓を着込んで逃走昨廿九日平町を徘徊中平署員に取押へられたが取調の結果同人は去月迄相馬郡中村町字向町雜貨商宮崎政治方に雇はれ數回に亘つて現金商品等二百圓餘を窃取した餘罪を自白した

殉職空の勇士

明日平驛を出發して

遺骨濱松へ

夏井村柴崎海岸で墜落慘死した濱松飛行學校付曹長濱谷憲二氏(二)臺灣屏東飛行八聯隊付上等兵橋本正二氏(三)の屍體は同聯隊の瀧少佐及び益田軍醫に依つて一應検視の上昨報の如く同

明日の部

前六、三〇 速成フランス語講座(一八)丸山順太郎
前七、〇〇 朝の修養詩篇 講義 中山昌樹
前七、四〇 六年生のおさらの時間「理科」五伊藤博
前八、四〇 家庭講座「流行性腦炎に就て」飯村保三
前九、〇〇 衛生メモ
前一〇、三〇 婦人の時間「八月中の女性問題」展望 山田わか
後〇、〇五 管絃樂と獨唱

渡邊警部補赴任

今回の警察官異動で若松署に轉任の平署司法主任渡邊泰二警部補は九月二日午前八時三十分平驛發着越東線で赴任する

試掘許可

磐灰と入山

磐城炭礦出願の本郡上遠野渡邊、山田三ヶ村地下の九十三萬九千七百坪並に天山採炭の高久、豊間兩村地内九十三萬五千五百坪同五十八萬四千九百坪の石炭試掘願はいづれも今日日附許可された

平町水道斷水

平町水道部は堤ノ内地内消火栓

取水工事の爲め本昨日午後九時から十二時迄堤ノ内地内の全部と新川町五部に斷水を行ふ

貧血馬を屠殺

川前村大字川前農佐藤松之助所

の牝馬は去る廿七日傳染性貧血馬と判明し昨廿九日屠殺處分に附された

明大學友會管絃樂團獨唱 河原喜久惠
後二、五〇 エール大學對 法政野球戰神宮球場中績 及川京子他
後六、二五 教育者體驗談 澁谷均 鎌田饒
後七、三〇 食後の音楽 モアナグリークラブ
後七、五五 琵琶「橋中佐」 秋根旭惠福岡
後八、二五 落語道灌三遊 亭金馬
後八、四五 俳諧民謡マイクの旅 三小富久龍瀨川兵藏金澤
後九、〇〇 時事解説一來 年度豫算に就て「經濟學博士 牧長輝智

平職業紹介所報告

回 人を求める方
△女中 十六才迄 尋卒
△漁夫 二十前後 月十五圓
△旅館番頭 尋卒 委細面談
△製材見習 十九才 尋卒 日給四十錢
回 職を求むる方
△雜役 三十七才 實業三修
△運轉助手 二十一才 高卒
△土工夫 三十二才 尋卒
△商店雜役 三十一才 尋卒

安齊外科醫院

平町・田町 電話四七五番



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島在史

第二百十三回

浪々の身 (五)

いかにも、英國人流の、武士は食はねど……だ。しかも、なんと甚だしい愛蘭訛りの、會話の傳授であることか……。

丁度ど、築地ホテル館の近くの、采女町に、手ごろの青ペンキ塗の安い洋館があつた。

その二階の、ガラス窓に、日本紙に青インキで、イギリス語傳授。

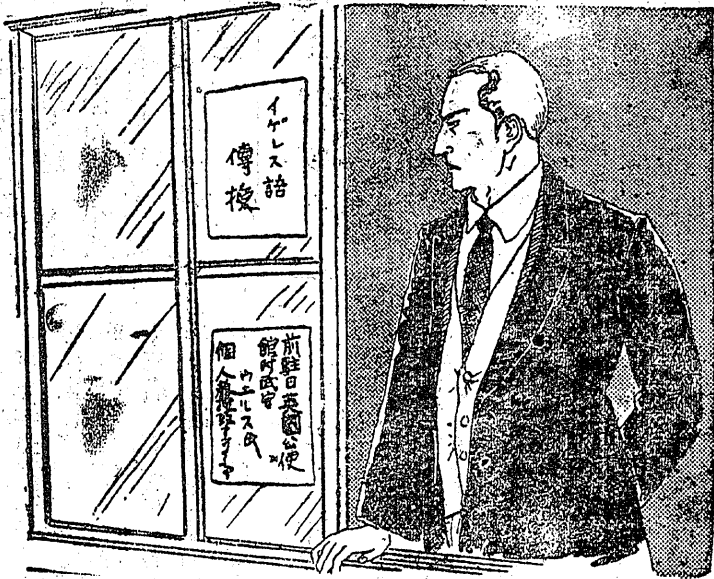
と、張出した。さすがに、師範と、元駐日英國公使館附武官何某とは、傍書しなかつた。

張紙をしてから、三日間、じいっと、隠れた蜘蛛のやうに、アルファベットを口ずさみながら、新日本の青少年の殺到を待たがや、英國のレットルを剥いだウエルズでは、そばをむいて寄りつかぬ。で、しかたなしに、ガラス窓に、

前、駐日英國公使館附武官ウエルズ氏個人教授致すべき候事。と、書いて張つた。すると、案の條、その日

のうちに、二人、あくる日三人……官員さん志願の、田舎出の猿のやうな青年たちがやつて来た。で、それからは、この青ペンキ塗りの開化館、二階から、甚だしい愛蘭訛り

の、無氣味なやぶにらみの、日本の青年に、イギリス語の發音、會話を教へることは、並大抵の苦勞ではなかつた。しかも、仕官の一方便に英語を覚えやうとする青年たちのことだから、實用一點張りの氣構へ、こちらは、語學教授にもとより經驗のない一武辨、それに甚だしい愛蘭訛り、到底實用にならざるやうな代物ではなかつた。それを、或る程度まで實用化さうと努めるのだから、英語傳授の仕事に二重



と、ガヤ／＼わめく猿たちの發音練習の交響樂が、いとも、にぎやかに、街路にこぼれてくるやうになつた。朝も、晝ひなかも、夜までも汗みどろになつて、持久戦の、パンのための、ウエルズの勤勉ぶりだつた。東洋の島國の、黄ろい顔

の負擔が要る。けふも、教授を済まして青年たちを送り歸してから、安物の椅子にどかどかと腰を落して、はつと溜息をついたところだつた。——何とこれは、パンのために働くことの、惨めさと、苦笑しながら、冷た

い紅茶をすつてをるところへ、誰かまた訪れた様子、ドアをノックする。——はてな、また、猿みたいな青年かな。さう思つて誰々「おはへりなさいやい」ドアは、つゝましかやかに開かれた。みると、無氣味な日本の青年ではなく、すつきりした明石の單衣を着た、一段と美しくいらしやめんおぶくたつた。

「ウエルズ先生」「おう、おふくしやん」彼は砂漠で綠林を發見したやうに、この日ごろの女氣のない生活からすくはれた氣がした。「どうぞ」「先生、なか／＼お勉強ですこと」「いや、まことに恥かしい次第です。語學教師など、

男子一生の仕事ではありません」ウエルズは、外國武官の威儀を、いまではすつかりすて、すこぶるくだけた態度だつた。

安齊外科醫院

平町・田町 電話四七五番

お醤油は……ヤマフル

醤油味噌 たひら 正宗 鯉節 食料品

鹽屋 金山崎合名會社

福島縣平町(電話營業部)製造工場(電話) 明治生命塔城代理店 山崎 與三郎

石炭一〇〇パーセント

サーヴキス

値下げ!

時節柄 一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢

品質が優良 特塊同 金參拾五錢 目方が正確 デナケレバ 一段バカリ安クトモ結局

◎市内は一俵より配達致します

電話三七七番

阿部石炭商店

株式賣買

合資三共商事

大町 電話三〇番

藥局開設報告

東京銀座伊東屋特製フランス人形店頭で御目見得致します 何卒皆様御覽下さい 店舗改築中大層皆様に御不自由を相懸けましたが愈々出来上りました一寸目新らしき明るい藥局となりました諸大醫處方箋調劑の御相手を仕りますれば何卒皆様方の藥局として多少に不拘御利用下さい 平町古鍛冶町(電話四四番)

阿康藥局

素晴らしい乗心地の!!! 三十五年式流線型新車が参りなした

是非御試乗御利用の程を御願申します

三井タクシー 電話六八五番